

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LET'S READ 1 授業例①

T.K. 先生

指導計画表

(全3時間)

| 時間 | 学習内容・主な活動 |
|----|---|
| 1 | “Alice and Humpty Dumpty”を音声から英文へとつなぐ。 |
| 2 | New words 内容理解 (Read and Think) 音読 朗読劇 |
| 3 | 絵本の英日版*を作成する。(絵本の製作完成については冬休みの課題とする。) *英語・日本語が共に書かれている絵本 |

*全3時間設定としたが、絵本の完成については冬休みの宿題とする。

実践例

1. 活動のねらい

中1になって、初めて取り組む LET'S READ である。ある程度のまとまった英文を読む機会であり、また絵本として知っているアリスの原作に触れる機会でもある。これまでの音声を中心に組みこんできた表現活動に、readingを通して、文字を使った表現活動へと発展させたい。

ただ、読むだけではなく、「絵本の英日版を小さい子向けに作る」ということで、相手意識を持って表現するために、readingにおいても主体的に読むことにつながる。

2. 具体的な指導例

1 時間目

デジタルテキストのピクチャーカードもしくは、絵カードを使って、音声による“Alice and Humpty Dumpty”に触れる。New words もジェスチャー等を使った Oral introduction で意味を類推させる。音声を伴うことで、「聞いたことがある」から意味がわかるという語も多い。小中連携の視点からも活かしたいところである。

『不思議の国のアリス』や『鏡の国のアリス』にも触れたい。映画の有名な部分を視聴させる。聞き取りやすい英語が使われていて、字幕が入ることで理解しやすい。洋画を英語で見るときかけにもなりうる。アリスがウサギを追いかけて、穴に落ちていくシーンは、生徒たちにも親しみやすく、英語を通して、アリスの物語に触れることができる。または、絵本を見せるのも良い。登場するものの中には、最近、キャラクターグッズとして目にするものも多い。

2 時間目

New words, 内容理解を Read and Think を通して進める。物語の内容がつかめたら。音読に取り組む。Team での朗読劇風に取り組むのも良い。「物語らしく読む」や「小さい子に読んで聞かせる」等の目標設定のもとに「相手意識を持って読む」ことに取り組ませたい。

3 時間目

『Alice and Humpty Dumpty の英日絵本を作ってみよう!』

- ・用紙を準備する。教科書の絵だけを残してA3サイズに拡大する。台紙用に色画用紙を用意(A3よりも大きめに)

生徒の作品例として：

- ・色を塗ったり、絵をつけ加えたりする。
- ・ふきだしにセリフを入れて、マンガ風に仕上げる。
- ・英文を工夫して書くことでわかりやすくしている。
- ・日本語に関西弁 や身近な言い回しを使ったりしている。
- ・図工の得意な生徒は、Pop-up 絵本風に切り抜いて貼り付けたりする。
- ・Humpty Dumpty の歌を加えたり、アリス、うさぎに、“Please wait.” や “Hurry up!”等のセリフを映画の一部を見たことにより、加えたりする生徒もいた。

3. 取り組んだ感想

生徒の感想には、次のようなものがあつた。

小さい子にわかりやすいように日本語にするのが難しかったけど、工夫するのが楽しかった。

漢字にふりがなをふったり、セリフはふきだしにして、字体を変えたりした。

小学生が集まって、自分が作ったものを読んでいてのを見て、うれしかった。大きな声を出して読んでいての聞いて、恥ずかしかったし、責任を感じてしまった…。

初めての LET'S READ ということで、文章量も少なく、簡単な内容ではあるが、「英語を使ってこんなこともできる」という機会になれば、表現活動への一歩にもつながると考える。Show and Tell や Speech だけでなく、こんなふうにと訳や作品を通して、英語による自己表現活動ができる。もしか

したら、こんな活動から、将来「翻訳家」を目指す生徒が現れるかもしれない。

また、教科書の付録にある”Little Mouse Wants an Apple“は、同様にしてチームで取り組ませることもできる。小学生に向けて、または学習発表の機会があれば、英語&日本語での朗読劇として取り組むことができる。その際にも、ここでの英日絵本の取り組みが系統的につながり、「勉強としての和訳」から「自ら楽しんで挑戦する和訳」へと発展する。自律した学習者を育てることに繋がればと思う。

本校は、小中一貫教育校であるがゆえに取り組める事例かもしれないが、今後益々、英語教育の小中連携の視点からも活かすことができると考える。地域で交流する機会や行事があれば、学習活動例の1つとして展示または発表等を通して、小中連携の機会を増やすこともできる。

小学生は「中学生になると、こんな英語の絵本が読めるようになるんだなあ。」と感じる良い機会となるだろう。また中学生は、小学生にわかりやすく工夫をすることで、これまでは普通に日本語訳をつけていたが、自分で考え、創意工夫して取り組む表現活動となる。

「相手意識を持って、話す・聞く・読む・書く」の4技能統合を目指したい。

生徒の例

